

東海支部愛知地域会 2023年度 第9回役員会議事録

日 時 : 2024年3月1日(金) 17:00~19:30
 場 所 : 昭和ビル5階 会議室 (名古屋市中区栄四丁目3番26号)
 ※WEB会議を併用
 出 席 : 森哲哉 地域会長 近藤万記子 関口啓介 高木耕一 野々川光昭 各副地域会長
 (順不同・敬称略) 西村和哉 会長補佐 澤村喜久夫 本部理事
 下線オンライン出席 川本直義 各室長
 間瀬高歩 笹野直之 恒川和久 東福大輔 黒野有一郎 各委員長・副委員長
 柳澤力 吉元学 委員長
 鈴木利明 水野豊秋 両監査
 委任状出席: 生津康広 上原徹也 杉本憲治 石川英樹 奥井康史
 オブザーバー: 尾関利勝 堀田正司 愛知賛助会
 欠 席 : 宮坂英司 中澤賢一
 議 長 : 高木耕一
 議事録作成担当委員会: 建築相談委員会
 議事録署名人: 野々川光昭 近藤万記子
 前回議事録確認: 2023年度第8回議事録

議 事

1. 地域会長挨拶

年度末の忙しい時期にありがとうございます。役員会も総会当日を含め後4回となりました。委員会再編の協議があります。次期委員長もそれを踏まえた上で検討になるので宜しくお願いします。総会議案書の準備、3月末までの活動について短時間に4月までにまとめる必要があるのでは、ご協力のほどお願いします。

2. 報告事項

(1) 本部報告

① 第312回理事会(2/16)(澤村)

資料-1

[審議事項]

- 1: 入退会承認の件は承認。当会では青山博行氏が正会員、太幡先生が専門会員の承認されている。他に市川氏の退会の届け出があった。
- 2: JIA 公益事業活動助成の JIA フィールドトリップは最審査となり、希望額 80,000 円に対して 40,000 円が認められた。
- 3: 五会「災害時における歴史的建造物の被災確認調査及び技術支援等に関する協力協定」。能登半島地震を受け、国立文化財機構文化財防災センター、日本建築学会、建築士会連合会、JIA、土木学会の五つの団体からなるが、協定で学会が整備している「歴史的建築総目録データベース」を利用できると指摘されている。
- 4: 2024年度本部予算、17Pに事業別一覧。収入が2億2千万円、支出も2億2千万円程度で本部の来年度の事業予算案が承認されている。重点施策としては災害対策活動の積極化、社会に対する情報発進の強化、新資格制度構築に向けた活動の推進が挙げられており予算が承認されている。
- 5: 近畿支部準会員、協力会員入会申込書式改正案が承認。本部の書式では性別が「男/女/その他」とあるが、近畿支部はそこを空欄にして出されたが、本部の書式に合わせることで承認された。
- 6: 文化財修復塾認定委員会 認定委員就任承認の件。同認定委員に正会員の田島氏、外部有識者の工学院大学後藤先生、山形大学永井先生の計3名の就任が承認された。JIA 文化財修復塾の名称をWGで検討し「JIA ヘリテージアーキテクト」と呼び名を変えることが承認されている。
- 7: 能登半島地震現地災害対策本部 本部長就任承認の件。2月16日付け書面で本部長が佐藤会長、副本部長が関東甲信越支部の対策委員長(風戸氏)、現地対策本部として本部長が北陸支部の堂田氏、関東甲信越支部の渡邊氏の就任が承認された。

[協議事項]

- 1: 資格制度改革の進め方について慶野副会長から2つ報告あり。新しい制度を推進するための特別委員会設置の提案と、JIAによる発注者支援強化の体制作りで、引き続き協議することになった。その中で別冊での報告あり、昨年の全国大会における建築家ウィークで開催された「資格制度のこれからを考えるシンポジウム」開催報告書「別冊」があるので参照されたい。
- 2: 「支部・地域会における業務受託手続きに関するガイドライン」前回の地域会役員会にて報告したが、契約する際には本部会長の委任状をもらい支部や地域会が契約できるのが1000万円未満、助成金については500万円未満というボーダーを切るというガイドラインが出され、地域会の意

見を聞きながら総務でまとめていくことになった。

[報告事項]

- 1:教育委員会報告:フィールドトリップ 3/10 大阪中の島美術館 74 名参加、リフレッシュセミナーは 12 名、東海支部からは 3 名の参加との報告。
- 2:広報委員会報告:2024 年度の予算で建築家 PR インスタグラム 385 万円、HP 保守 310 万円、JIA マガジン送料で 100 万円との内訳説明あり。
- 3:JIA 環境会議報告:カーボンニュートラルセミナーは 2024 年度以降も継続開催としたいと報告。
- 4:JIA 保存再生会議報告:能登半島地震に関して文化財ドクター派遣予定。復旧支援委員会には東海から中澤氏をはじめ全国 6 名が参加予定。
- 5:オンライン/リモート対応や環境整備に特化した特別委員会報告:三重の奥野氏からの報告、JIA エキスパートインデックスから、JIA メンバー・ネットワーク・サービス「MNS」に名称を変更することになったとの報告。
- 6:能登半島地震報告:北陸支部長の堂田重明理事より。
- 7:総務委員会報告:今回の能登地震被災者において会費免除の規定があり申し出があれば運用する。
- 8:活動及び業務執行状況報告:資料参照。

- ② 総務委員会 (2/7) (澤村) 資料-2
 - ・会員資格の喪失について 2 年会費を納めないと退会となる。そのような場合は支部や地域会から声を掛けるようにとの話あり。東海支部では事務局で調べることが可能で該当者は無い。
- ③ 財務委員会 (2/6) (水野) 資料-3
 - ・フィールドトリップで入場料など内容が吟味されていなかった。
 - ・本部の予算書で、収入では受取り利息で金利の高い国際委員会が増えている。資格制度で増額があるのは本年度更新の人数が多いという予測があるため。全国大会補助は昨年度 300 万円に対して今年度は 50 万円となる。昨年東海支部の 300 万円は結論が出ていないが、支部からの 100 万円も含めて 400 万円の赤字という感じになるため最後の恵まれた大会と言える。今後は全国大会のやり方について見直しが必要となり厳しくなる。公的資産の蓄財問題で出してもらえたため今回は助かったと言える。

Q:資格制度 290 万円とある新規登録と更新費用が本部会計に入っているということか。(森)

A:その通り。現在は本部会計に含まれている。当初は別会計だった。(水野)
- ④ CPD 評議会 (1/26) (野々川) 資料-4
 - ・静岡の石橋氏が参加。プログラム認定後の内容変更について、基本的には認定後の変更は認められない。しかし、今回の関東甲信越の新春のプログラムでは資格制度について予定していたが、能登地震が起きて急遽変更したという事で、これについて例外的に認めることにしたと報告あり。
 - ・飲酒飲食を含むプログラムは基本的に認められない。時間を切り離して申請する事と説明。
- ⑤ 職能・資格制度/建築家資格制度実務委員会 (2/7) (野々川) 資料-5
 - ・東海支部から宮坂氏、杉本氏、オブザーバーで野々川が参加。締め切り後の新規認定申請人数は今季 15 名で、西尾コンペがあった昨年の 51 名より大幅に減っている。更新率は 68%、昨年は 77%、その前は 80%ぐらいなので 10%以上落ちている。再登録は 33 名、昨年は 35 名。資格制度改革の話があるので様子を見ようとしているのかもしれない。東海支部の更新率はもっと悪いという状況。
 - ・財務報告でもあったが累積で 1000 万円の黒字、3 年更新なので 3 年累計では 500 万円の黒字との報告があった。資格制度ではほとんど使っていない。更新料を下げたらどうかという意見もある。収支が安定したのは支部の認定評議会が無くなったことによる。
 - ・10 月の「資格制度のこれから」の報告書は 3 月と 4 月の JIA マガジンに 2 回に分けて連載されるので是非読まれたし。ただし JIA マガジンは本資料からのダイジェスト版となる。
- ⑥ 住宅等連携会議議事録 (2/14) (西村) 資料-6
 - ・九州大会『建築の未来』にて、東海支部同様プレイベントをズーム等で 10 月の木金開催で決定。早めに動いて枠の希望を伝えた方が良い。住宅等連携会議も動き出している。
 - ・業務環境改善で、業務報酬基準改善の説明会が国交省からあり (3/1)。国交省 HP に資料が上がっている ZOOM 会議に出られなかった方、興味ある方は見られたし。
- ⑦ 広報委員会 (野々川) 資料-7
 - ・出口氏が出席。リーフレットの案が 3 月中旬の JIA マガジンに同封予定で、案は本部理事会資料にあり。文化財ドクターについて石川県の各地域会で横につながる活動を模索中で東海支部では原氏に派遣依頼の連絡あり。
- ⑧ 「JIA25 年建築選」について (野々川) 資料-8
 - ・本部で委員会審査があり受賞 7 作品が決定。東海支部からは掛川市庁舎が受賞。蒲郡体育センターは登録。

- ⑨ 教育委員会（吉元）
・特に無し。

資料－ 9

- ⑩ 支部運営費(本部からの分配金)について（関口）
・名誉会員会場関係費 119,328 円と、本部来賓のウェルカム／レセプションパーティ参加費 420,000 円が、支部運営費とは別に追加で本部から支払われた。

資料－ 10

(2) 支部報告

- ① 支部役員会報告（2/22）（野々川）

資料－ 11

報告事項

2-(1)本部

(2)支部報告省略

(3)静岡地域会:3/7 第2回 JIA 塾 東工大 山崎鯛介教授による文化財の修復に関するレクチャーがあり 80 名の申し込み。

愛知:後述。

岐阜地域会:3/8JIA 窓で金沢研修旅行。三重地域会:3/8 会員研修会で森羅万象匠塾開催、との各報告あり。

3 その他:愛知後述。静岡で法人協力会員の(株)総合資格が退会することになった。

議事

1[審議事項]

①「羽島市役所旧本庁舎保存活用について」後援名義依頼があったが、これまで協力してきた団体との表記があるので後援には当たらないとの判断。

②東海学生卒業設計コンクール事業報告・計画について奥井氏より報告。2023 事業は支出を抑えたため 15 万円の予定だった支部支出金は 10 万円弱で済んだとの報告。2024 年度の事業計画も承認されている。

2[協議事項]

①アーキテクトの広告収入について関口氏より説明あり。当初予定 1,640,000 円に対して 1,493,000 円で 147,000 円が不足し、目標額に達していない静岡と愛知で負担してはどうかとの提案。岐阜地域会余剰分の扱いは岐阜地域会で確認し回答を待って決めることになっている。

3 その他

① 2024 年度 東海支部通常総会議案書については後日メールで送付。

②総会基調講演講師について決まっていない為、候補者を推薦して欲しい。

④監査意見:本部と全国大会助成 300 万の交渉をお願いしたい、会員数減少に対しての対策を検討して欲しいと石田氏より。

・アーキテクトの報告事項について、静岡 18 万、愛知 32 万、岐阜 5 万、三重 9 万というのは、賛助会の広告費を全て愛知で賄っていたのを、12 ヶ月号分のうち 1 ヶ月分を静岡、1 ヶ月分を岐阜 & 三重で負担してもらい、愛知を 2 ヶ月分減らす交渉し受け入れられた結果である。名刺広告も足してこの分担金額に決めているが、もう少し愛知の分を減らしても良いかもしれない。このあたりも支部で協議をしてもらえると良いと考える（水野）。

・設計コンクールについて、4/27 に TOTO プレゼンテーションルームにて行われるので是非参加されたし（水野）。

- ② 建築家資格制度実務委員会（2/16）（代:野々川）

資料－ 12

・各地域会から出席、三重と次期委員長候補関口氏欠席。新規も再登録も東海支部は無く更新のみのため書類チェックだけであり、資格制度の改革案について意見交換を行った。資料は本部に送付済みで 3/18 に本部で評議会が行われ宮坂氏が出席予定。

- ③ 災害対策委員会について（野々川）

資料－ 13

・奥野氏より報告。2023 年度が終わるが任期等は各支部に委ねるということに。岐阜地域会の大瀧氏は本年度まで。支部長／幹事長も交代になるので 2024 年度版が新たにできることになる。

Q:継続などの確認はしていないか？（水野）

A:まだである（野々川）

- ④ フェロー会員推薦について（代弁者なし）

資料－ 14

・本年度は現段階で推薦者なし

- ⑤ 「JIA 建築家大会 2023 東海 in 常滑」決算について（笹野）

資料－ 15

・当初予算段階では本部から 350 万円＋支部からは 100 万円の助成金の予定が、結果は本部 300 万円＋支部 100 万円で決まり、トータルで 102,411 円の赤字で決着。本資料を元に本部と交渉し 300 万円の助成が決定された。

Q:先ほど議題にあった名誉会員会場関係費 119,328 円と、本部来賓パーティ参加費 420,000 円は 300 万円に含まれているのか（水野）。

A:含まれていない。本部の決算書に別途項目がある（笹野）。

Q:そうであれば大会決算書の収入に入れるか支出を消すべきではないか（水野）。

A:支出していない形である。添付資料は少し古いバージョンだが本部提出分は訂正している（笹野）。

Q:表現がわかりにくいので欄外に別会計として記載するなど検討されたし。また、支部支出金 100 万円とあるが、本来的には愛知地域会からの 100 万円の事業費であり本部向け資料に記載されていないので、何か言われた時に対応できるよう対策しておくべき（水野）。

- ⑥ 本部サイト・トップページ掲載について（野々川）
・愛知のリニモテラスと、ぎふ木遊館が掲載予定。

資料－16

(3) 委員会、地区会、研究会報告

- ① 総務委員会（2/26）（間瀬）
・第9回役員会次第、協議事項等について検討を行った。
- ② 広報委員会（代弁なし）
- ③ ブリテン委員会（2/15）（恒川）
・委員会開催、会報について議論。4月号から表紙を過去10年間の住宅賞受賞作品から選定予定。5月と6月号は新旧役員挨拶になるので宜しく願いたい。
- ④ 研修委員会（東福）
・特に無し
- ⑤ 職能・資格制度委員会（杉本）2/7委員会開催。次回3/6開催予定。
ドイツの建築事情から学ぶ（3/15）（森）
・行政WGと共催で伊藤氏のシンポジウム開催予定。矢田氏の事務所にアルバイトに来ていた縁。ヒアリングをした際にコンペに関するドイツ公共事例など大変有意義と判断。現在登録18名＋JIA以外で13名。今後多方面に広報を展開していきたい。
- ⑥ 事業委員会（2/22）（黒野）
・委員会開催。来年度の愛地球博公園の県児童センターで一寸格子の依頼あり幹部で尋ね、本年度と来年度の事業予定の内定などを話している。次期委員長予定は金山氏、副委員長を中川氏と花井氏の予定。3/26に美浜で開催予定の紙コップワークショップに合わせ持ち出し委員会を予定。
- ⑦ 建築相談委員会（柳澤）
・先月2件の相談。
- ⑧ JIA愛知・大学特別委員会（代：森）
・鈴木先生から太幡先生（専門会員予定）が引き継いで行われる予定。
- ⑨ 住宅研究会（内：森） 旅行について
・旅行は現在申込み7名。住研以外にも広報を愛知全員に広げる予定。4/12～13広島尾道方面。
- ⑩ 保存研究会（代：澤村）
・能登半島地震を受けて文化財ドクター派遣事業を協議中。復旧支援委員会では中澤氏が東海から委員として出ていて準備をしている。
- ⑪ 行政WG（吉元）
・西尾の編集を静岡理工科大学の脇坂先生を中心に進めている。
- ⑫ 地区連絡会（吉元）
・来年度も行政WG及び地区連絡会双方を継続したいが人選は検討中。
・恒川先生も審査委員をされた蒲郡の西浦駅待合所コンペについて、3/23（土）AMにお披露目式があると市のHPに公開された（黒野）。
- ⑬ 建築家＋特別委員会（代：森） 視察について
・次号は住宅研究会と共同で行う方針。スタートとして名建築（住宅）を見に行こうと考えており、構想で終わっていて浦和に復元された立原道造のヒヤシンスハウス、オリジナルが増沢誠で小泉誠設計の三鷹の最小限住宅スミレアオイハウスに4名宿泊予定、翌日埼玉のものづくり大学に学生が実測して復元したコルビジェのカップ・マルタン休憩小屋、計3つの見学を建築家＋の取材ということで行う予定。現在12名だが、建築家＋の企画でもあるので今後愛知の会員に広報予定。
- ⑭ JIA愛知・賛助会（堀田） CPD研修会（3/29）
・1/26新年会は31名の会員の参加あり感謝する。
・3/29（金）にCPD研修予定。告知済み。パナソニックとTOTOの2単位で締切り3/5。参加求む。

資料－17

資料－18

資料－19

(4) その他報告

- ・無し

3. 審議事項

- ① 退会届 正会員「鈴木達也」(笹野) 資料- 2 0 (共有)
・紹介者の鈴木監査に連絡しお話しいただいたが退会となった。
・ビックファームを退社し会費補助もなくなり、今後建築とどう向き合うかも含め検討中にて辞意は固いとのこと。同社から他に誰か、入会するか未定(鈴木)。
- ② 退会届 正会員「小田英一」(笹野) 資料- 2 1 (共有)
・自己都合による。
- ③ 建築WS@豊橋「お店をつくろう！」事業報告(黒野) 資料- 2 2
・無事終了。建築家賞を受賞した5名には賞品のオリジナルノートを届けた。商品代10,000円を含む支出合計32,800円。
- ④ 猪高小建築教室「一寸格子~ひなん時くつろぎハウスをつくろう!~」事業報告(黒野)
・昨年11月と12月の2回に分けて行われ天気も良く、5年生15チーム計97名に加え、JIA愛知/岐阜/JSCA/矢田事務所インターンの学生など多くのスタッフも協力、父兄も参加。各賞を出し、盛況に終わったと考える。高木氏の車庫に現在置かせてもらっている木材の保管場所が昨年来からの懸案事項。岡崎の小原木材に置かせてもらえないか西村氏より交渉を進めてもらう予定。また、チラシを作成したが大学生の参加がほとんど無かった為、広報の方法が今後の課題。支出はワンボックスのレンタカーや保険などで支出合計72,899円。本日届く予定の今月のアーキテクトに添付の記事が載っている。 資料- 2 3
- Q:会計報告の書き方として終始差額の『▲』表記は赤字の意味になる。27,101円残ったということであれば『▲』は不要(水野)。
- A:豊橋の件も含め修正し再提出する(黒野)。
・上記2ヶ所を訂正することで承認。
・来年度も依頼されており豊橋は8/28~29 設営審査、8/30~9/1 展示で進んでいる(黒野)。
・猪高小についても同じ時期にということで依頼されており11月12月に開催予定(黒野)。
・県児童センターでのWSも電話があり7/14を予定(黒野)。

4. 協議事項

- ① 2024年度事業計画(案) ※予算を除く(野々川) 資料- 2 4
[基本方針]
愛知地域会は、会員による委員会、WG、研究会が活動の基軸。昨年の建築家大会2023in常滑では開催県地域会として、これまでの地域に根差した地道な活動の賜物だった。これら教育支援、環境活動、建築相談、行政支援などの公益活動の継続・発展とともに、地域の建築家の考え、活動、仕事をより多くの方々に知ってもらい、地域とともに歩む建築家職能集団としての存在価値を高めていきたい。2024年度は、以下の3点を基本方針として取り組む。
- 1:地域との繋がり強化 「地域に根差した公益事業」を基軸とし、これからも事業活動の継続発展に取り組む。そして、建築関係団体、行政、市民、学生などとの対話の窓口を広げ、地域会と会員活動の情報発信を充実させる。HPも含まれる。
- 2:地域会の活性化と持続化
コロナ禍終息を迎えリアル参加による事業と、多種多様な交流と研鑽の場を設ける。また、近年の社会状況の変化と会員の減少のなか、持続可能な地域会運営のため委員会の再編成および財務の健全化について長期視点で取り組む。
- 3:地域と建築家の将来を見据え
公共建築の設計者選定のありかたを見据えたコンペ・プロポーザルの支援および地域の事前防災・事前復興計画などを地域行政と向き合い提案していく。また、本部理事会が提案する建築家資格制度改革案を周知し、会員間の議論を深めていく。
- 地域の将来と建築家の将来のための活動に御協力をお願いする。
- [事業計画]
緑色表記は昨年度のもので、新たなものを黒字としている。新たなものは
・ホームページのリニューアルによる地域社会との繋がり強化。
・「建築家+」の発刊準備。
・建築家資格制度改革(案)の周知。
・財務の健全性確保策の検討。

予算については本部提出用が1月に先行して承認されている。

[役員名簿]

- ・相談役：大塚一三、福田一豊、森口雅文
- ・顧問：尾関利勝、小田義彦、谷村 茂、服部 滋
- ・本部理事：浅井裕雄、澤村喜久夫
- ・地域会長：野々川光昭
- ・副地域会長：近藤万記子、高木耕一、西村和哉、間瀬高歩
- ・監査：水野豊秋 吉元学

あくまで総会で承認された場合のものである。ただし、顧問は愛知地域会役員会、支部関係は支部役員会で承認された場合。他に鈴木氏に顧問を打診中で返事待ち。

③ 委員会再編成について（野々川）

資料-25

- ・会員減少対策と、横断的なつながりを強めるためにも関連する部門を合わせて議論をする機会を増やして停滞をなくすことが目的。2022年には会員委員会と総務委員会が統合、2024年からは広報委員会とブリテン委員会を統合してはどうか。研修委員会は無くして各委員会や研究会が分担してそれぞれ関連する研修事業を行っていくという考え。職能資格制度委員会と相談委員会についてはこれまでの活動に加え、職能資格制度についてはコンペプロポ支援、相談については防災を行政WGと共に進めてもらえればと考えた。従来の担当室というものは取りやめてその代わりに、地域会長と副会長がそれぞれの委員会を分担して参加し見ていくという考えで、5つの委員会に整理している。地域会幹事数について、総務委員会は今まで通り委員長と副委員長で2名、副委員長は会員担当。広報委員会も幹事は委員長と副委員長の2名でブリテンと広報をそれぞれ担当する。職能資格制度、建築相談、事業委員会の幹事は委員長1名で提案。議決権を持つ役員数がこれまで委員会8名+3室で11名だったものが7名となる。最近、役員出席率も悪いので減らしても良いのでは。記載していないが「環境」については事業委員会で担当してはどうかと考えている。大学特別委員会と建築家+特別委員会については、それぞれWG（ワーキンググループ）に名称を変えている。大学講座を鈴木先生から継ぐ太幡先生が正会員ではないので細則により委員長になれないことも理由のひとつ（野々川）。
- ・委員会を開いても人数がほとんど集まらない状況で、他の委員会も同様では。委員会の回数は減っている中で、逆にSNSで同好の志は簡単に見つけられる時代になっている。中期的にはJIAのような同業者集団の存在意義が問われるかもしれない。バーチャルが発展するほどリアルな要求も高まってくることも考えられるので長期的には何とかなっていくとは思う。そのためにも、一旦組織を縮小した方が良いのではないか。この案に全面的に賛成である（東福）。
- ・東福氏が次期ブリテン担当（広報委員会）で良かったか（森）。
- ・広報委員長で構わない。6年研修委員長をやるのは厳しい。何かを目上の人に頼むことも難しく、次期委員長を早期から探すように言われたりもしたが中々見つからない状況（東福）。
- ・委員会活動がきちんとできていなくて何故委員会か、ということが根本。いくつかの委員会があるが質が確保できていないのかもしれない。委員会数を減らし、やることをまとめたり増やしたりして質を上げ、それを限られた人数で限られた責任体系の中で活性化の掘り起こしをしよう、何かやらなければ、という意味は賛成だが、ブリテン経験者としては、支部の会報委員長も兼ねるといふ激務も担っており、広報と合体するのであれば副委員長をしっかりと立てることで行けるのかもしれないが、大鉦というイメージ（鈴木）。
- ・ブリテンと広報は役割としては近いので一緒にすることは構わないが、ルーティーンのあるブリテンと、そうではない広報が一緒になると、ルーティーンの方はしっかりやるが広報の方が疎かになる恐れがあるような気がして止まない。また、役員数を減らしすぎである。役員数を減らすほど、役員会に出てこない人も減ると思う。会長にしても支部長にしても、地域会や支部、本部の幹部になるためには、役員数を確保して臨まないといけない気がする。議決権のある委員長+副委員長を減らした分だけ、不足する委員長が必要な気がする。会員増強をする職務の委員会がない。そのような意味では研修委員会は会員増強を行うという要素が大きかった。事業委員会もそうだが。会員増強する方策を考えると、広報の方法を考えるなど、強力な言葉が欲しい。会計の中にもあるが、笹野氏が1人で賛助会の担当を、会員委員会の役割をしている。総務委員会の中で1人。そのため、賛助会を増やすなどの活動が何年か全くできていないような気がする。愛知の基盤を支えているのは賛助会の会費である。昔50社あった頃、地域会長だった頃に努力

して法人協力会員を増やしてきた。それが41社に減ったまま何も動いていないように見える。会員及び法人協力会員を増やすことも網羅すべき（水野）。

- ・法人協力会員も含め、若いエネルギーに満ちた状態を作らなければいけない。かつて青年委員会があり、何かあれば集まってやっていた。事業委員会に吸収されたのか判らないが、そのような若い活気があるところを見せて会員増強につなげる所が組織できると良いと感じる。WG体制もそうなのかもしれないが今年の全国大会のように、ある目的のため委員会を結集した形で選りすぐって特別な運動体が組めると機動的で良いと思う（鈴木）。
- ・当時、青年委員会を無くしたのは、事業委員会が活性化していなかった為でもある。青年委員会の良さとは、責務がなく何をやっても良いという所だった。しかし、年寄り委員会となってしまい、青年が集まっている青年委員会では無くなってしまった。そのため組織替えをしたが、ある意味失敗だったかもしれない（水野）。
- ・昔ほど若い人は元気ではない。どれだけ声を掛けても会費の話しになるとすぐに居なくなってしまいう状況。それぐらい若い人たちは全然恵まれていない。上の方達の世代とは反応の仕方が全然違う。会員増強と声を上げて言葉だけでは無理である。コンペなどで若手に活躍の機会を与えることを一生懸命やることあたりから始めないと、社会全体を変えて行かないと全然ダメだと思う。それぐらい社会の状況が昔とは変わっている（森）。
- ・森氏の意見に賛成である。そのような目的で行政WGは懸命にやっている。そのため委員会主体からイベント主体に。委員会を構成できない地域会では建築家講演会を続けて行くなどしている。若手に任せるイベントなどを企画し、会員であるなしにかかわらず展覧会やイベントを中心にまとまっていく事も一つの解決ではないかと思う。全く若手に賛同を得られないのが賛助金をいただくという事である。頭を下げて頼み込んではいるが、会の運営を任せて良いのか疑問である。しかし、それが無いと立ち行かないのも理解している。とは言え、若い人には全く賛同を得られないシステムである。次の世代に渡す事を考えるとその点を真剣に考えないといけない。協賛金集めは最大限努力するが、次の世代の悩みでは。会費ではなくイベント毎の額も含めての協賛金の課題（吉元）。
- ・その点だけで話すと、要は先輩たちが積み重ねてきた事で金額が成り立っている。その部分と吉元氏の言われる弊害、全国大会で何百万も一人で集める係になり閉口したが、何の意味もない毎年の協賛を集めるために出している広告、名刺広告も含めてそう言うことに何名が協力しているのか。現実には一部の人しかやっていない。その現実改善する必要がある。みなさん出しているのか？問題点は沢山ある。この議題は違う機会を作り協議すべき時期に来ている（水野）。
- ・幹部で議論した中で「既存」のものを小さくするという事は共通している。どうやって議決権者を減らして枠線は減らすがやる事はきちんとやる、というシステムを調整することに注視した。周りの人を取り込む行事やイベントを仕掛けないと人が集まらないことに対して、枠線に囚われず時代に即して変化させていくことが重要。自由にやれることはWGに託すなどもあり得るが、そうする為の余力が現在全くないので、既存の組織を一旦縮小してからその辺りの議論に入る必要があるとの改訂案であると思っただきたい（近藤）。
- ・今後の議論というか時間をかけてという事だが、既存の委員会構成では次の総会までに誰も委員長をやれない空白ができる状況。もう少し早く協議として出すべきであったが、状況としてはそのぐらい逼迫している事も理解いただきたい（森）。
- ・その辺りの情報は伝わっていないので、もっと発信すべき（水野）。
- ・前回の役員会でも次期委員長を報告して欲しいと発信しているがほとんど反応が無い。個別にヒアリングし幾つかの委員会からは反応があるが、全くお手上げという委員会も出てきている状況。そのため、次期会長候補野々川氏と1月ほど議論し、今回の改定案を提出した。この案で行けないのであれば来季は間に合わない為、メール協議でいかがか（森）。
- ・最後は会長が判断すれば良いので、1～2週間かけてメール協議で良いと思う（水野）。
- ・本日欠席の役員もいるので、時間を切りメールなどで協議し修正するところはして、総会に良い改革案を示せば良いと思う。皆様にご協力いただければと思う（高木）。

④ 財務状況と改革案について（野々川）

資料－26

- ・水野氏が2010年から昨年度までの財務状況及び改革案を作成いただいていた資料に、続きを付加し取りまとめたものである。2022年までは確定、青字部分は今後の見通しになっている。正会員数の減少、準会員数はあまり変わらず、他の種別含め収入が記載されている。それに加えて法

人協力会員、協賛金（名簿費用）の収入推移等が書かれており毎年 300 万を予定しているが毎年減って来ている。直近ではコロナの影響もあるが総収入も減少している。支出の方もコロナの間は支出も少なくなっている。毎年 100 万円ほど足りない状況で取り崩しており赤信号で、広告等が減れば更に厳しい。支出を圧縮すべきだが厳しく、毎年 100 万円の収入を増やす必要あり。案として地域活動費を徴収し、尚且つ法人協力会 45 社確保などして何とかなるかもしれないが、会員が減っていく現状も加わる。名簿広告について 100 万円の収入を見込んでいるが本年度の状況は厳しいと聞く。地域活動費を徴収すれば会員が減るなど議論もあるだろうが、危機が迫っている状況をまずは理解いただきたい（野々川）。

- ・この議題についてもメールで意見を募り、各委員会内でも議論しておいて欲しい（高木）。
- ・委員会構成案についてはメール協議後に次回役員会で決定したい（森）。
- ・現役員の方々のご苦労様でした。年度末まで頑張ってください。建築家大会の決算を拝見したが良くここまでまとめてくれた。関わった皆様にお礼を申し上げたい。豊橋と猪高の 2 つのワークショップもだんだん広がって来ているので今後に期待したいと思う。次期体制についてはメールで申し上げたい。災害の件について報告があり五会の歴史的建築物の調査とあったが、今回の能登は風景の被害が大きい。土木学会が入っているのであればランドスケープ的に広く見る必要があるのではないか。避難施設とか仮設住宅についても、北陸支部や本部なのかもしれないが、東北の経験を生かして積極的に JIA は関与していくべきではないかと思う（尾関）。
- ・再編案に賛成である（恒川）。

⑤ 後援名義使用の依頼について 日本マンション学会 2017 名古屋大会（4/20～21）（森）

- ・中部整備局や行政も、過去に JIA も後援しているので問題はないと考えるのがいいか。
- ・（主宰名（年）間違い修正の上）承認。資料－ 2 7

5. 専決事項（後援名義・広告掲載・協賛など）

- ① 建築八団体連絡会 令和 5 年度負担金の請求について（森）資料－ 2 8
 - ・新年会負担金 84,000 円。承認している。
- ② 第 31 回愛知まちなみ建築賞 協賛依頼（森）資料－ 2 9
 - ・80,000 円の協賛を承認。
 - ・会員名簿の誤植等を訂正のこと（鈴木）。

6. その他報告

- ① 第 157 回建築八団体連絡会（2/5）（間瀬）資料－ 3 0
 - ・新年互礼会は来年ルブラで決定、能登半島情報交換などを行った。
- ② 令和 5 年度アスベスト対策連絡会議（2/21）（森）資料－ 3 1
 - ・法改正、現状報告、補助制度に関する説明があった。

※資料 24, 25, 26 について総務委員会からメール協議事項として役員各位へ配信する。

7. 監査意見

今日の協議事項はすごく大事なことである。十分に話し合いを詰めないと、次の新しい委員長、新しい体制へのリレーもできないので、メールでのやりとりが重要になる。各委員長も主体的に意見を述べて欲しい。役員会に委員長が出てこないとか、その場合の代役の副委員長が決まっていなかったりと、委員会活動そのものが停滞していることは確かなので、喝を入れることは良いと思う（鈴木）。

次回役員会 2024 年 3 月 29 日（金）16：00～18：00（JIA 東海支部事務局 会議室・WEB 会議併用）

次回議事録担当委員会：住宅研究会

（次回総務委員会：2024 年 3 月 25 日（月）18:00～）

資料提出先：間瀬高歩 総務委員長

議事録作成 建築相談委員会 柳澤 力
議事録署名人 野々川光昭
議事録署名人 近藤万記子